

1. 渡島体育研究会の研究構想図 (2019. 12. 13 暫定 ver.)

**全道大会の成果・課題から**

- ・自信がつく体育学習の充実
- ・体育授業の一般化
- ・指導内容の明確化
- ・他領域での実践の必要性
- ・授業実践の情報共有

**新学習指導要領から**

- ・生涯にわたり運動に親しむ資質・能力の育成
- ・主体的・対話的で深い学びの実現
- ・カリキュラム・マネジメント
- ・共生の視点を重視
- ・内容の一層の明確化

**渡島の子供の実態から**

- ・運動への意欲が高い
- ・フェアプレイの浸透
- ・思考・判断・表現力に課題
- ・粘り強く取り組むことに課題

〔渡島体育研究会研究主題〕

**「豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成」**

～子供が運動の楽しさに触れた・がんばれた・共に成長したと感じる授業実践を通して～

〔研究仮説〕

- (1) 運動への多様な関わりから「運動の中心なおもしろさ」を設定し、それに触れることができる単元を構想することで、「運動の楽しさに触れた」と感じることができよう。
- (2) 運動の中心なおもしろさに触れるための動きを学習内容の中核とし、その動きの獲得や動きの楽しさに触れるために試行錯誤できる場を保障することで「がんばれた」と感じることができよう。
- (3) 仲間と動きや考えを共有し合いながら、動きの獲得や動きの楽しさに触れるための課題を解決する学習を展開することで、「共に成長した」と感じることができよう。

〔目指す子供像〕

- (1) 「**運動の楽しさに触れた**」と感じる子供
  - ・運動を通して「する・みる・支える・知る」の多様な関わりから、自己の適正等に応じた運動の楽しさや喜びを見いだす子供
- (2) 「**がんばれた**」と感じる子供
  - ・運動の楽しさに触れるため、めあてを見つけ、粘り強く意欲的に取り組むとともに、自らの学習活動を振り返り、次のめあてを見つける子供
- (3) 「**共に成長した**」と感じる子供
  - ・運動の楽しさに触れるため、仲間と教え合い、認め合い、励まし合いながら学び合う子供

**研究の視点1**〔運動の楽しさに触れた〕

- ・運動への多様な関わり方の想定
- ・運動の特性と子供から見た特性の見直し
- ・運動の中心なおもしろさの設定
- ・運動の中心なおもしろさに誘い込む工夫

**研究の視点2**〔がんばれた〕

- ・運動の中心なおもしろさに触れるための動きの設定
- ・運動の中心なおもしろさに触れるための動きに触れたり、獲得したりするための場の保障
- ・運動中心なおもしろさに触れるための動きに触れたり、獲得したりする際に生じるつまずきの想定とそれに対する手立ての構築

**研究の視点3**〔共に成長した〕

- ・仲間と動きや考えを共有し合える「共有の課題」と「ジャンプの課題」の設定
- ・課題解決につながる仲間の動きや考えが共有できる手段の構築

参考文献

- 文部科学省, 小学校学習指導要領解説体育編 (2017)  
 文部科学省, 中学校学習指導要領解説保健体育編 (2017)  
 岡沢祥訓, 北真佐美, 諏訪祐一郎, 「運動有能感の構造とその発達及び性差に関する研究」 (1996)  
 岡野昇, 青木真, 「体育における『主体的・対話的で深い学び』に関する考察」 (2018)  
 岡野昇, 山本裕二, 「関係論的アプローチによる体育の授業デザイン」 (2012)

## 2. 研究授業

中学1年 柔道 授業実践者 木古内町立木古内中学校 柳谷 有司

生徒が「できる・やりぬく※旧研究主題・共に成長する」柔道の学習を目指して

昇段審査

「段」を設定し、昇段審査を毎時間実施する。昇段することで「できる」につなげる。

簡易試合

単元の中に試合を行うことで、相手との攻防の中での自己の課題を明確にし、後半のウォーミングアップ（固め技や補助運動）での課題解決につなげる。

体落としを軸とした授業展開

習得する投げ技を精選することで、技能の習得、習熟の喜びを味わえるようにする。

自他共栄の精神の醸成

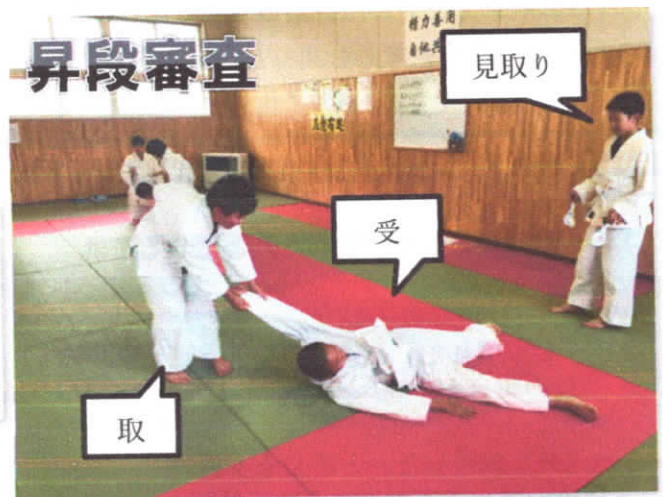
単元を通して「自他共栄」を視点に指導、評価を行うことで、生徒と自他共栄の精神の共通理解を図り、相手を尊重する態度や公正な態度につなげる。

昇段審査

3人グループで「受」「取」「見取り」の役割に分かれ、「見取り」が審査をすることで、認め合いにつなげる。

※段位別技能目標基準

段位	初段	二段	三段	四段	五段
長空の姿勢から後ろ受身がてきる	仰向けの姿勢から横受身がてきる	膝立ちの姿勢から前受身がてきる	2人一組で前回り受身がてきる	四段に加え弾跳の姿勢から後ろ・横・前受身がてきる	



### 【グループワーク及び授業チェックシートからの考察】

- 3人グループ学習による子どもたちの学び合いの姿が見られた。
- 昇段審査において教え合う姿が見られ、「みる・支える」関わりを生じさせていた。  
→さらに子どもたちの評価する力を養い、相互評価の充実を図りたい。
- 掲示物や教師の言葉がけなど、子どもたちに関する情報が数多く用意されている。  
→情報の精査や活用のさせ方を検討する必要がある。
- 柔道の機能的特性や構造的特性をより深くさぐり、「中心のおもしろさ」に触れるための動きを考えていく必要がある。
- 課題意識を生み出す場面が必要。
- 生徒同士のかかわりや生徒だけで進める場面をもっと多くてもよい。
- 本時の中でのやるべき活動が多すぎた。1時間の中での指導内容の焦点化が必要。

### 【研究主題に関わって】

- ・研究主題に関して「『できる』だけでいいのか?」「『できる』が豊かなスポーツライフの実現に本当につながるのか?」という問いが生じた。
- 運動やスポーツをより広く捉える必要がある。
- ・運動を教師が教えて身に付けさせる以上に、子供たちが試行錯誤しながら、運動がもつ「中心のおもしろさ」に迫っていく学習が大切なのではないか。
- ・子供たちは自然にその「中心のおもしろさ」に迫っていくことは難しいので、中心のおもしろさに誘い込み、引き出し、価値づけていくことが教師の指導の中心になるのではないか。